①重点目標	**a　確かな学力定着のための授業の充実　【学習】【各教科】**		**b　自主的な学習態度の育成　【学習】【各学年】**	
②重点課題	1　授業力向上への組織的取り組みと学力各層への指導の充実		2　自主的な学習計画の作成と自学自習時間の確保	
③現状	・学力の多層化が顕著である。 ・各教科で本校で求められる授業力について常に授業研究・振り返りを行うとともに，授業力向上についての話し合いを授業公開期間以外にも頻繁に行う必要がある。		・多くの生徒が意欲的に学習に取り組んでいるが，本校の目標とする自学自習時間には達していない。 ・一部の生徒は自習場所や自習時間が定まらず，自らの力を伸ばすために必要なことを考えて各自の課題に向き合う力が不足している。	
④達成目標 達成率 Ａ：達成できた。 Ｂ：概ね達成できた。 Ｃ：達成できなかった。	1 各学力層に対応するため，授業および講座等を充実させる。特に上位層を伸ばす指導を心掛ける。（５）	B	1 自己分析から望ましい学習スタイルを確立し，自立した学習集団を形成するため，面談や節目指導を充実させる。（８）	A
	2 観点別評価実施に向けて，学習連絡会・教科会等で検討・試行・改善するなど，組織的に対応する。（６）	B	2 「自学自習の手引き」「シラバス」，授業，定期テストとの有機的な繋がりを強化し，学習の質と量を確保させる。（２）	B
	3 GIGA スクールや県指定事業に伴い，ICT 環境を積極的に活用し，教員の個人スキルの向上を目指す。（４）	A	3 自学自習時間の目標（平日「学年＋２」時間，休日「学年＋５」時間）達成率 80％以上。（７）	C
⑤具体的な取り組み	1 土曜講座・平日講座（３年）・上位者講座を戦略的に開設し，学年・教科で連携して学力各層に効果的な指導を行う。 1 学力差に対応した学習意欲を高める授業方法や教材開発について，教科内や教科間で研究・実践を重ね共有を図る。 1 特に配慮が必要な生徒には情報を学年・教科で共有し，教科担任面談等の個別指導で，早期から丁寧に対応する。 2 観点別評価実施に向けて，学習連絡会・教科会等での議論や生徒の自己評価から，望ましい形態を模索する。 3 ICT を効果的に活用できた事例を教科会や学習連絡会等で共有することにより，教員のスキルアップを図る。 3 SSH 事業の「授業カリキュラム開発」により，授業方法の研究について学習連絡会等で組織的かつ積極的に取り組む。		1 年度当初やテスト前後・部活動引退時期・長期休業前等の節目における面談や学年集会により，適切な自己分析から学習計画を立案し自学自習の学習習慣を構築させる。 1 スタディサポートや校内模試の分析から，各教科の弱点の共有を担任団で図り，面談でのアドバイスを充実させる体制を構築する。 2 定期的に「自学自習の手引き」「シラバス」を活用することにより現在の自分の学習法を振り返らせ，学習の質と量をアップさせる。 2 授業や定期テストにおいても上位層の意欲をかき立てるような内容や出題を工夫する。 3 知的好奇心を刺激し，学習を諦めさせないよう丁寧に導くとともに生徒同士が刺激し合える環境を構築し，学習時間の確保を促す。 3 ３年生の学習時間の変化を追跡する。	
⑥評価 *栃高評価満足度 %は 1 そう思う+2 大体そう思う の割合を表し，( )は 5 わからないの割合表す ＜ ＞･･･昨年度データ	1 栃高評価⑤（習熟度別授業〔数学〕）では生徒 87(3)〈86(3)〉，保護者 79(18)〈75(21)〉が適切と回答，学力各層に応じた指導と，上位層への適切なアプローチができた。 1 授業アンケートにおける授業の満足度 9 割以上が 41 科目中 27(+3)科目，8 割以上が 10(-3)科目で適切な授業が実施できている。(　)は昨年度比 2 観点別評価実施に向け拡大学習連絡会で組織的に対応した。 3 電子黒板が頻繁に利用され，職員の ICT スキルもアップしている。授業公開は好評であった。授業研究会も有意義であった。		1 栃高評価①(面談による学習アドバイス)では，生徒 95(1)〈94(2)〉，保護者 91(5)〈94(4)〉，栃高評価③（長期休業期間の学習アドバイス）栃高評価⑦（自ら学ぶ取り組みへの適切な支援）では，生徒９割以上，保護者８割以上が適切と回答している。 1 時機をとらえた学年集会を効果的に開催することができた。 2 授業やテストは各教科で適切に実施できている。「自学自習の手引き」「シラバス」の活用に課題が残る。 3 第２回学習実態調査の平日の学習時間の達成率は１年生が 22.1%(+4.0)，2 年生が 4.4%(-2.8)，3 年生が 22.4%(-4.1)で，課題である。生徒間格差もみられる。(　)は昨年度比	
⑦学校関係者評価	・授業力の向上についてよく努力がなされているが現状に満足せず，知識に裏付けられた実力の充実が必要である。 ・授業への ICT 機器の積極的用がなされているが今後も、教職員間で活用事例を共有するなどの取組が大切である。		・面談による学習支援が機能していることが伺える。情報共有を図り生徒の実態を踏まえ，個に応じた指導が必要である。 ・一方で，学習方法が身についていなかったり，長時間の学習ができなかったりする生徒も一定数いるのではないか。	
⑧次年度への課題	・習熟度に合わせた内容をさらに検討し，学力の向上を目指す。 ・観点別評価に関して PDCA サイクルを適切に実施するとともに問題点を改善する。 ・ICT の授業への活用についての研修等を行い，継続的に教員のスキルアップを図る。		・時機をとらえて個別面談を実施する。生徒個々に応じた学習アドバイスを充実させるとともに，自然と学習時間が増えるような指導を実現する。 ・観点別評価の実施に向けて「自学自習の手引き」「シラバス」を修正する。	

①重点目標	**c　進路希望実現のための効果的な進路指導の実現　【進路】【各教科】【各学年】**			
②重点課題	3　三年間を見通した進路指導計画の実践とノウハウの継承		4　模試データ分析の効果的な活用と適切な進路情報の提供	
③現状	・全体計画を進路指導部で作成し，進路講演会や学問探究講義，卒業生との懇談会等を実施し，キャリア教育を推進するとともに，内発的動機，学習意欲の向上を目指している。 ・生徒への個別対応が重要性を増しており，時宜を得た効果的な生徒個人面談を実施するために，三年間を見通した面談の内容について共通理解を図る必要がある。		・校内模試データによる校内ランキングの見直しや，進路指導委員会に向けての事前検討会を充実させることにより，進路指導部と担任間，および担任と生徒間の進路に関する具体的な情報のやりとりをさらに充実させる必要がある。 ・進路学習室や大掲示板の環境整備や，進路委員の活動を通して，１，２年生に対する情報提供もさらに充実させる必要がある。	
④達成目標 達成率 Ａ：達成できた。 Ｂ：概ね達成できた。 Ｃ：達成できなかった。	1 土曜講座の実施形態の工夫，内容の充実とともに，保護者への内容の周知を図る。（２）	B	1 校内模試による校内ランキングの見直し，各種研究会等の適切な情報提供を通して，進路指導委員会を充実させる。（５）	B
	2 時機に応じた生徒個人面談の内容充実により，LHR 以外の場面でも進路意識・学習意欲の向上を図る。（８）	B	2 １，２年次の進路検討会を実施し，志望校等についての情報の共有を図り，低学年から進路情報の提供を充実させる。（３）	A
	3 三年間を見通した進路指導のノウハウ継承を図り，特に上位層への低学年からの働きかけを強化する。（７）	B	3 「高大接続改革」に関して，新入試改革への対策，その効果的取組が学校全体で着実に進められるよう努める。（４）	B
⑤具体的な取り組み	1 生徒の学力向上のために，土曜講座の実施形態（全員講座と希望講座，層別指導の組み合わせ等）を工夫し，実態とニーズに合わせて計画・実施し，充実したものにするとともに，その内容について外部へも発信していく。 2 これまでの蓄積（各学年の LHR 資料，学年独自の進路関係行事の実施記録，長期休業前指導の資料，各資料や行事の意義を明文化した資料等）を活用し，LHR 以外にも積極的に進路学習の機会を設定できるようにする。 2 多くの教員との面談を通して自己理解を深めるとともに，キャリア教育の各種取組により進路意識を高揚させ，学習意欲の向上につなげていく。 3 三年間を見通した進路指導計画を教員と生徒が共有する場を多く設定し，生徒に対し有効な働きかけを積極的に行う。		1 校内ランキングの見直しを丁寧に行うとともに，事前検討会を充実させ，収集した情報を，チューター制度を活用し生徒の進路希望の実現と教職員の研修に生かしていく。 1 個別大学模試の分析や追跡調査，業者の分析報告会の情報を共有しそれをもとに生徒の進路希望実現に向けた指導を行う。 2 クラス担任からの入試制度等の進路情報の伝達や，進路学習室・大掲示板の活用や各クラス進路委員の活動を通しての恒常的な情報発信など，情報提供環境を充実させる。 2 低学年からの進路情報提供の一環として「大学入試問題研究」を充実させ分析結果を校内実力テスト・校内模試の作問につなげることで，上位層の指導に活かす。 3 「高大接続改革」に関して全職員で情報を共有し，各学年の取組に対し，学校全体での支援が行えるようにする。	
⑥評価 *栃高評価満足度 %は 1 そう思う+2 大体そう思うの割合を表し，( )は 5 わからないの割合表す<　>･･･昨年度データ	1 栃高評価②（土曜講座の充実）では，生徒 88(5)<85(3)>，保護者 73(21)<75(21)>と保護者の割合が前年比で低下。学力向上のために，土曜講座の実施形態（全員講座と希望講座，層別指導の組み合わせ等）を工夫し，実態とニーズに合わせて計画・実施し，充実したものにするとともに，その内容について引き続き外部へも発信していく。 2 栃高評価④（３年間を見通した進路指導）では，生徒 91(3)<90(3)>と毎年割合が高い。特に１年生が高いのが毎年の傾向である。LHR 以外の場面でも進路意識・学習意欲の向上が見込まれる。 3 県の学力向上事業も活用しながら，学年による定期的な分析や改善策を通して，３年間を見通す機会を持つことができた。		1 進路指導委員会では個々の生徒に応じた「ぶれさせない」指導や助言をさらに充実させる必要がある。 2 １，２年次の進路検討会は志望校の検討，クラス分けの情報共有など効果を上げている。今年度は，２年次 10 月の進路検討会が実施できたことはかなり意義深い。 2 栃高評価⑥（進路に関する情報提供）では，生徒 93(1)<88(5)>，保護者 86(6)<73(21)>と，年々安定しているが，昨年比でも割合が高くなった。 2 主体的に進路選択ができるよう指導体制を整え，きめ細かい個人指導を行うための具体策として，「大学入試問題研究」の内容を充実させることができた。 3 高大接続改革については最新情報の収集と共有を継続している。	
⑦学校関係者評価	・３年間を見通した進路指導に対する満足度が高く，適切で効果的な指導が行われていることが伺える。 ・保護者に対する土曜講座の実施形態などの周知を徹底する必要がある。		・進路関連情報の提供について満足度が高く，本校が誇れる素晴らしい組織的な体制が確立されていることが伺える。	
⑧次年度への課題	・土曜講座の実施形態（全員講座と希望講座，層別指導の組合せ等）を，実態とニーズに合わせ，内容を外部へ発信する。 ・本校独自の進路指導力の継承とその強化。		・生徒の実態とニーズに合わせた面談と時機を捉えた面談のさらなる充実。 ・大学入試改革への対応の継続と強化。	

①重点目標	d　主体的な学習活動による健全な教養の醸成　【図書館】		**e　健康的な生活のための生活習慣の確立　【保健厚生】**	
②重点課題	5　図書館利用の質的な向上をめざした支援体制の整備		6　生涯を通じて心身共に健康な生活を送るための健康管理能力の育成	
③現状	・平成 26 年度には年間貸出数 5,000 冊越えの記録を達成したが，その後読書量から質の向上へと重点をシフトし，令和元年度は 1,288 冊，2 年度は 890 冊であった。 ・図書委員会を中心に，ビブリオバトル県連続入賞，伝えよう！本の魅力コンテスト県入賞など，読書推進活動は盛ん。 ・情報センターとしての新たな使命をふまえ，論文検索用端末が新規導入された。		・いまだ終息の兆しが見えない新型コロナウイルスの拡大防止対策を実施しながら体力の低下を防ぎ，また，心の健康を維持しなくてはならない。 ・感染症の拡大防止や健康的な生活習慣に関する様々な情報について，生徒が正しく理解できていなかったり，インターネット等からの情報により意思決定・行動選択している場合もある。	
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	1 生徒主体による読書推進活動のさらなる活性化。（６．８．５）	A	1 週２日以上の運動を実施し，自らの健康状態・健康課題を理解できる生徒数 80%（２）	B
	2 年間貸出数 2,000 冊以上。（１．３．７）	B	2 「保健だより」やリーフレット等の配布・掲示により新型コロナウイルス感染症予防に関する情報を発信し，新型コロナウイルス感染防止対策を徹底する。また，熱中症などの情報を発信し，身近な健康課題を学び，生活習慣の改善に結び付ける。（１）	A
	3 情報センターとしての利用促進と支援体制の充実。（４．２．３）	A		
⑤具体的な取り組み	1 図書委員を中心に，県「高校生読書コンシェルジュ」事業とも連携し，一層多角的に図書館利用へと生徒を誘う。 2 教科指導との連携，印刷物配布，ホームページ，イベント，展示の工夫等を組み合わせ，利用者の読書の質を維持しつつ，図書館利用者数の向上を図る。 3 公立高校図書館としての旧来の発想にとらわれず，生徒の探究活動を真に支援し得る体制を，より自由で柔軟な発想で整備する。		1 正しい運動の方法や個人に応じた運動について，体育授業を通じて自身の健康状態・健康課題を考える指導を実践する。また，部活動や体育的行事等などでも運動の効果を実感させ，運動の習慣化の大切さについて理解させる。 2 感染症の拡大防止や熱中症などの身近な健康課題について，教科での指導とともに「保健だより」やリーフレット等で効果的な情報を提供する。また，生徒会コロナ対策部と保健委員会が中心となり，生徒が主体となって手指消毒の啓発活動を実施し，感染防止対策を徹底する。	
⑥評価 *栃高評価満足度 %は 1 そう思う+2 大体そう思う の割合を表し， ( )は 5 わからない の割合表す < >･･･昨年度データ	1 「高校生読書コンシェルジュ」が核となり，例年になく活発な活動を展開，ビブリオバトル県優勝など，成果をあげた。 2 連携，広告，展示の工夫等を組み合わせ，年間図書貸出数 1,419 冊。前年度比 59%増，一昨年度比 10%増。 3 高校図書館としては画期的な論文検索システムが軌道に乗り，利用方法の紹介・周知・督励の効果もみられ，生徒の研究活動に活用されている様子が顕著に観察できた。栃高評価⑦（自ら学ぶための支援）生徒 92(2)<90(1)>，保護者 89(6)<90(4)>と高水準を維持。		1 栃高評価⑧（健康的な生活を送るための指導）生徒 81(4)<83(2)>保護者 85(6)< 88(6)> 1 運動実施状況（週 2 日以上運動する生徒）は，１年 79.4%（全国比＋2.3%），２年 70%（－4.7%），３年 52.3%（－8.3%），全体では 67.5%（－3.2%）で，１年生は全国平均を上回ったが２・３年生は下回ってしまった。 2 感染症に関して正しい理解と素早い対応について分かりやすい指導を実施した結果，新型コロナウイルス感染症について生徒たちが主体的に取り組めるような支援につながった。養護教諭のサポートにより，保健委員・生徒会コロナ対策部による様々な対策を実施することができた。	
⑦学校関係者評価	・高校図書館に論文検索用端末が導入されているのは画期的なことである。 ・図書館については活発に利活用されている様子である。引き続き向上を図る取組みが望まれる。		・保健だよりやリーフレット等での適切な情報発信がなされ，生徒が中心となった啓発活動も行われている。学んだことが主体的な行動につながるような適切な指導である。健康管理能力育成や生活習慣の改善は，重要な課題であり，教科横断的な視点で指導する必要がある。	
⑧次年度への課題	・図書館利用の量・質の両立 ・より高度な目標達成のための，職務内容および分担のポジティブ・ラディカルな見直し		・体育の授業等を通じて自ら運動することの重要性を指導する。 ・新型コロナウイルスの感染拡大対策について，生徒が主体性をもって対応できるような指導を継続する。	

①重点目標	f　特別活動の充実と生徒の積極的な参加への指導		【特活】	
②重点課題	7　全生徒で計画的に取り組む充実した学校祭の企画と実施		8　学校行事，部活動，体験活動に全力的に取り組むための環境整備	
③現状	・生徒が組織する学校祭実行委員会と各クラスの文化委員が中心になり，全員参加による学校祭を企画している。 ・一昨年は三千名超の来場者数を維持できた。地域や保護者から一定の評価を得ている結果であると推察できる。昨年は，コロナ禍の対応で，校内のみの実施となった。 ・今年度は，新型コロナウイルス感染症への対応を万全なものとした上で，更なる質の向上を目指す取り組みが必要になると思われる。		・部活動加入率も高く，移動教室，外国人との交歓会，ボストン海外研修，県庁堀清掃ボランティア，生徒会リーダー研修会といった多くの行事や体験活動に積極的である。県庁堀清掃では，栃木市役所との協力関係を構築し，実施体制が確立されている。 ・文武両道を掲げ多くの生徒が学校生活を送っているが，進路実現のための学習時間の確保と，部活動や生徒会活動等の様々な活動を両立していく難しさもある。 ・移動教室，ボストン海外研修は，実施できなかった。	
④達成目標 達成率 Ａ：達成できた。 Ｂ：概ね達成できた。 Ｃ：達成できなかった。	1 クラス企画における質の向上に向けた実行委員会と文化委員及び関係職員との連携を強化する。（５．８．３）	B	1 年間を通して部活動加入率 80%を維持する。（２．７．３）	B
	2 感染症対策を講じた上での一般公開を目標とし，生徒と共に様々な工夫を講じ，臨機に対応する。（３．２．６）	B	2 移動教室，ボストン海外研修代替行事やリーダー研修等の行事において，リーダーシップ・フォロワーシップの育成を図れるように，指導内容の質的向上を目指す。（７．８．４）	A
⑤具体的な取り組み	1 実行委員会を定例化し，生徒会係職員を中心として，職員と実行委員，文化委員の連携を強化する。 1 クラス企画が準備段階から計画的に取組めるよう文化委員と実行委員との連携を密にするとともに，文化委員と担任との関わりを充実させる。 2 県内外の他校の様子や各種イベントでの感染症対策の情報を収集し，実行委員会の生徒と共有する。 2 実行委員会内審局の生徒との情報共有を丁寧にし，クラス企画の進捗状況の把握と指導助言をすることで，質の向上を目指す。		1 特別活動全般において，その意義を各クラスにおいて指導し，事前指導・研修の機会を設け，参加生徒がそれぞれ課題意識を明確にして活動に臨めるようにする。 1 年度初めの部活動加入率の調査と，中間及び年度末の時点での退部状況の調査を実施するとともに退部者の実態把握に努める。 1 部活動と学業の両立支援の通知を配付し，生徒や保護者に周知するとともに，部活動優先日（金曜日）を徹底する。 2 移動教室やリーダー研修では，生徒主体での行動が出来るように事前の準備を丁寧に行い，ボストン海外研修代替行事では，この状況下であるからこそ，出来るものにフォーカスを当て，内容の充実を図る。	
⑥評価 *栃高評価満足度 %は 1 そう思う+2 大体そう思う の割合を表し，( )は 5 わからないの割合表す ＜ ＞･･･昨年度データ	1 生徒会担当教員の指導により，実行委員会，文化委員，関係職員の間で，連携が強化された。物品の管理に不備があり，課題である。 2 栃高評価⑩（学校祭の内容充実） 生徒 93(2)<93(2)>　保護者 88(19)<85(12)>　昨年に引き続き今年度も校内公開のみであったが，生徒の満足度は昨年と同じ数字となった。感染症対策について，準備作業中において不完全な場面が見られた。		1 部活動加入率は，１学期当初が 81.9%，２学期末では 79.8%であり，80%以上を維持することができなかった。 2 ボストン研修は代替行事も含め新型コロナウイルスの影響で中止となった。 リーダー研修会では，例年の宿泊を伴う内容を日帰りに変更して行い，リーダーシップ育成の点で成果をあげることができた。 移動教室では生徒の自律性を育成することができた。	
⑦学校関係者評価	・栃高祭は，生徒のみならず，近隣の小中学生や地域の方にとっても栃高の良さを感じられる貴重な機会である。今後も途切れることなく，ノウハウが継承されるよう望む。		・行事，体験活動は本校の誇れる点である。現在実施出来ないものもあるが，このような状況であるからこそ新しいアイデアを生み出す契機としたい。 ・安定した学校生活を送るため，クラス以外の帰属場所としての部活動の価値を考え，部活動加入率の向上が望まれる。	
⑧次年度への課題	・次年度も PR 活動を工夫して行う。 ・準備段階から感染症対策を適切に講じ，外部からの参加者を拡大できる体制を整える。 ・外部からの参加者の満足度を測るアンケートの検討を行う。 ・職員間の連携強化と物品管理の工夫改善。		・部活動加入率低下の原因を検証し，対策を講じる。 ・移動教室等において，参加者全員のリーダーシップおよびフォロワーシップの育成を目指した指導内容を検討する。	

①重点目標	g　規範意識と社会性の向上		【生徒指導】	
②重点課題	9　社会生活における法の遵守とマナーの向上		１０　校内生活における規範意識の向上と望ましい人間関係の構築	
③現状	・各教科やホームルーム，学校行事等において，生徒自身が安全な交通社会の主体となる指導を実践している。 ・学校生活において生徒心得等諸規定を遵守する態度を育成し，そのことが社会のルールを守る態度の育成や品位ある言動につながることを理解させ生徒指導を実践している。		・生徒一人ひとりに存在感や達成感を与えると共に思いやりの心や規範意識を高め，豊かな人間性や社会性を育てる指導を実践している。 ・規範意識の向上や生徒心得遵守に関する指導については全職員の共通理解に基づき，その時，その場での指導を実践している。	
④達成目標 達成率 Ａ：達成できた。 Ｂ：概ね達成 Ｃ：達成できなかった。	1 交通事故発生ゼロを目指す。（２）	B	1 いじめ解消 100%を目指し，早期に認知し早期に解決する。（６）	A
	2 登下校時の苦情がなくなることを目指す。（８）	B	2 携帯電話等使用規定の違反生徒数昨年比 80%を目指す。（７）	A
	3 遅刻生徒数昨年比 80%を目指す。（７）	C	3 教育相談的な支援が必要な生徒の早期発見と早期対応に努める。（８）	A
⑤具体的な取り組み	1 交通事故防止については，生徒自身が，被害者及び加害者にもならないことを目指し，保健の授業や交通安全講話，ホームルームでの注意喚起など，教育活動全体を通して指導する。 2 教職員，生徒会交通委員や PTA が街頭指導等を含む交通指導を行い，他の模範となるような行動を目指させる。 3 時間的な余裕が持てるような生活習慣の見直しについて，登下校のみならず，学校生活全般を通じ時間的余裕が持てるよう行動するよう指導する。また，家庭と連携して指導するとともに，随時立哨指導を実施する。		1 生徒同士がお互いの特性を認め合い好ましい人間関係を築き，いじめが起こりにくい集団づくりの指導をする。 2 携帯電話等使用規定をはじめとする校内規定の遵守については，内面的な自覚を促し，自主的にマナー向上に努めるように指導する。 3 定期的に学年主任，各部長間で不適応傾向の生徒について情報交換を行い，職員間での情報共有と迅速な対応に努めケース会議を迅速に開く。また，必要に応じてカウンセリングを有効に活用する。 3 「生活アンケート」や「QU テスト」の実施とその結果の効果的な活用により，いじめや学級集団の状況把握に努める。	
⑥評価 *栃高評価満足度 %は 1 そう思う+2 大体そう思う の割合を表し， ( )は 5 わからない の割合表す < >･･･昨年度データ	1 交通事故発生件数２件（昨年度比－１件） 前年同様登校中の事故である。前年同様，保健の授業や交通安全講話，ホームルームでの注意喚起など，教育活動全体を通して更に指導する。 栃高評価⑫（交通ルールの遵守やマナーの向上） 生徒 80(5)<79(4)>保護者 80(12)<89(14)> 2 交通関係のマナーの苦情１件(昨年度比±0 件) 職員，生徒による街頭指導を予定通り実施(４回)した。また PTA 合同の通学路指導を実施(２回)した。 3 遅刻者数は昨年度に比べて 13%増であった。 朝の立哨指導や SHR での指導を強化していきたい。		1 いじめ認知件数１件(昨年度比±0 件) 昨年度に引き続き１件確認されたが，担任・学年主任・教育相談係・養護教諭の連携により早期に解決している。 2 栃高評価⑬（生徒の規範意識を高めるための指導） 生徒 84(3)<80(4)>　保護者 85(9)<90(7)> 栃高評価⑭（携帯電話等のルール遵守と情報モラルの向上） 生徒 82(3)<80(3)>　保護者 86(7)<89(5)> 携帯電話等規定違反６名指導(昨年度比－2 件) 昨年度よりは減少したが，来年度 0 を目指して指導していきたい。 3 栃高評価⑨（悩み等の相談体制の整備） 生徒 81(7)<81(6)>　保護者 77(16)<81(12)> 「生活アンケート」や「QU テスト」を実施し，その検討会も実施した。また，主任会議等を利用し，各学年間との連携もしながら，その都度，ケース会議を実施した。その結果，効果的な活用により，いじめや学級集団の状況把握を早期に把握できた。	
⑦学校関係者評価	・交通ルール遵守やマナー向上指導への満足度は年々上がっており，非常に良い傾向にある。 ・生活習慣に関する指導については，適切な改善策が示されている。家庭との連携を密にした指導が望まれる。		・規範意識を高めるための適切な指導への本校生徒の評価が昨年より高くなっており，適切で積極的な取り組みがなされていることがうかがえる。さらなる規範意識の向上に向け，継続的な指導が必要である。	
⑧次年度への課題	・基本的生活習慣の確立を促すべく，学校内にて５分前行動を徹底させる。		・規範意識の向上のために授業・学校行事・学校生活を通じ指導を徹底していく。	

①重点目標	h　環境教育への積極的な取り組み　【保健厚生】		**i　広報活動の充実　【渉外】【教務】**	
②重点課題	１１　ゴミ・資源問題への意識の向上と学校生活環境の改善		１２　家庭・中学校・地域社会への積極的な広報活動の展開	
③現状	・教室内の清掃や教室周辺（特にロッカー上）の整頓について，時期やクラスによって不十分な場合がある。また，トイレ等の清掃が不十分な場合がある。 ・可燃ゴミと不燃ゴミとの分別回収は概ね良好であるが，クラスによって故紙紙回収の意識に差が生じている。また，粗大ゴミや不要な物が一部放置されている。		・「PTA だより」を年２回発行 ・PTA 評議員会を年４回開催 ・PTA クラス懇談会，PTA 支部会，学年研修会において進路・学習・生徒指導等の取組や現状についての情報提供 ・広報手段としての学校案内は大幅な改訂から 10 年を経ており，単位制導入を機にリニューアルが必要である。 ・コロナ禍にあって HP の更新は意識的に行われたものの，ほしい情報にアクセスしにくいとの指摘もある。	
④達成目標 達成率 Ａ：達成できた。 Ｂ：概ね達成できた。 Ｃ：達成できなかった。	1 教室内外の清掃及びトイレ等徹底するとともに，環境衛生の意識向上に努める。（７）	A	1 「PTA だより」の内容の充実を図るとともに PTA 関連行事の開催方法を見直す。	B
	2 リサイクル活動を通してゴミの分別を推進し，故紙の回収量について月平均 1,200kg 以上を目指す。 また，見える場所にある粗大ゴミを撤去する。（５）	B	2 単位制導入に合わせリニューアルした学校案内を発行する。	A
			3 栃高ホームページをより見やすいものとするために全体を見直す。	B
⑤具体的な取り組み	1 環境美化委員の中心に，定期テスト後に教室周辺の学習環境をチェックする。保健厚生部が中心となり，校内のトイレ消毒や換気方法を検討し，生徒が自主的に行動できるよう指導する。 2 ゴミ分別と故紙回収を推進するため，分別等の表示や掲示を工夫するとともに，故紙回収箱の設置について年間を通じて各教室に義務づける。また，粗大ゴミは事務室・公仕さんと連携して撤去する。		1 「PTA だより」に校内の様子をより多く掲載できるよう検討する。 1 感染症対策に十分配慮した PTA 行事を企画・運営を行う。 2 本校の特色を明確にするとともに，他校の例も参考にし，学校案内をゼロベースで見直す。 3 新任教員を中心に栃高 HP の更新方法の講習会を実施し，発信内容の充実を図るとともに，HP の構成そのものの改善に取り組む。	
⑥評価 *栃高評価満足度 %は 1 そう思う+2 大体そう思う の割合を表し，( )は 5 わからないの割合表す < >･･･昨年度データ	1 生徒の清掃状況について，教室内は良好である。廊下やロッカーの上，階段などは今後も重点箇所としていきたい。また，消毒や換気については，コロナウイルス感染症の対策に関する教員の指導によって生徒が主体的に行動し適切な対策を実施することができた。 2 栃高評価⑮（環境美化・ごみ減量・リサイクル推進） 生徒 71(6)<64(5)>　保護者 68(22)<67(23)> 2 ゴミ分別については，可燃と不燃の分別についての意識は向上してきたが，故紙の回収量については月あたり 592.5kg（11 月まで）であり，昨年度比 158.5kg の減であった。		・栃高評価⑰（家庭や地域社会への情報発信） 生徒 88(3)<85(5)>，保護者 88(3)<88(3)> 1 「PTA だより」の発行をはじめ，生徒を通して保護者への情報発信や連絡に努めた。 2 学校案内をリニューアルし，単位制高校への移行に関するリーフレットを別刷りで作成した。 3 講習会を実施し，発信内容の充実に繋がったものの HP の構成そのものの改善には着手していない。	
⑦学校関係者評価	・生徒が主体的に取り組めるよう適切な指導が行われていることがうかがえる。環境問題へのさらなる意識の向上を図るとともに，生徒の主体性を育む指導の継続が望まれる。 ・社会生活を営む上でも，整理整頓，ゴミの分別などは基本になるので，家庭と連携して，意識向上に努める必要がある。		・家庭や地域社会への情報発信の本校生徒の評価が高くなってきていることから，積極的な情報発信が行われている。 ・今後は情報を受け取る側のニーズも分析しながら，本校の素晴らしい点がより伝わるよう効果的な情報発信が望まれる。	
⑧次年度への課題	・教室の換気や消毒等による感染予防を継続するとともに，環境を整え，安全に学習できる状態を維持する。 ・委員会等を活用し，故紙を回収することがゴミの減量化と再資源化につながることを理解させる。		・新型コロナウイルス感染症の対策を講じた上での PTA 行事の開催方法について，さらに工夫検討を加える。 ・HP による行事や部活動の大会参加報告が迅速でない場面がしばしば見られる。 ・HP については断続的に見直す仕組みづくりが必要。	

①重点目標	**ｊ　国際社会で活躍できる有為な人材の育成　【ＳＳＨ】**	
②重点課題	１３　課題研究指導方法の確立	
③現状	・ルーブリックを用いた議論を通じて課題研究を進めていく体制は定着しつつある。しかし，生徒の取組には依然として差があり，調べ学習にとどまるものも見られる。 ・課題研究の質を判断する基準が生徒・教員ともに一律になっていないため，評価の観点と基準を明確化する必要性がある。	
④達成目標 Ａ：達成できた。 Ｂ：概ね達成できた。 Ｃ：達成できなかった。	1 課題研究のテーマ設定から研究計画書作成までを主体的に取り組ませるための指導を充実する。（３．２．７）	B
	2 課題研究における探究のプロセスの質的向上を促し，外部発表等の件数増加につなげる。（５．４．８）	B
	3 「SSH 生徒研究成果発表会」における全員発表を継続し，発表スキルを習得させる。（６．７．１）	B
⑤具体的な取り組み	1 テーマ設定に係るアドバイスの観点を明確化し，共通認識に基づく指導体制を構築する。 1 計画書を見直す機会を複数回設定し，研究内容の深化を促す。 2 探究のプロセスに則った課題研究か否かを判断するために，ゼミ担当教員用のルーブリックを改訂して指導に生かす。 2 課題研究で身につけるべき科学的手法を把握するためのテキストを配布し，指導の一貫性を高める。 3 口頭発表方法の講義と演習時間の確保および発表スキルの評価を一体化した年間計画を策定して指導する。	
⑥評価 *栃高評価満足度 %は 1 そう思う+2 大体そう思う の割合を表し，( )は 5 わからないの割合表す < >･･･昨年度データ	1 テーマ設定に係る観点をシートで共有し，計画書への助言時に共通認識で指導する体制を整えることができた。 1 計画書の見直しを複数回設定できた。 2 課題研究テキストを作成・配布し，年間の学習内容を当初に示すことができた点は評価できる。 2 個人の課題研究から日本学生科学賞最優秀賞の受賞につながったことは評価できる。 3 口頭発表方法の講義と全員の演習時間を計画に位置づけ実施できた。演習の際に口頭発表スキルの評価表を生徒に配布し相互評価を行うことができた。	
⑦学校関係者評価	・質の高い探究活動の実現への方策として具体的な取り組みが行なわれており，今後の研究内容の深化，探究心の向上が期待できる。引き続き継続的な指導改善の取り組みが望まれる。	
⑧次年度への課題	・探究のプロセスに則った課題研究の実施が，研究内容の深化に寄与するという認識を持ち，取組を継続する。 ・年間指導計画を見直し，効果的かつ汎用性の高い課題研究指導法の開発を継続する。 ・個人研究の外部発表件数は３件であった。外部発表を目標として一人一研究に取り組むという体制ができたので，次年度の件数増加に向けて指導を継続する。 ・口頭発表の成果物作成に係る十分な時間の確保は継続的な課題である。情報機器の活用を視野に引き続き検討する。	